

今年6月同窓会のHPに『ぶらり散歩 権太坂』を寄稿しましたが、今回はJR 保土ヶ谷駅を起点として、前回のスタート地点まで歩いてみましょう。



東海道の保土ヶ谷宿は日本橋から8里下った位置にあります。帷子川（かたびらがわ）と今井川が侵食して細長い谷を作った場所で、窪んだ地形の「ホド」（陰）から地名が付けられました。JR 保土ヶ谷駅西側に線路と並行しての走る商店街が旧東海道です。宿場の様々な機能を果たした「助郷会所跡」、「問屋場跡」（といやば）、「高札場跡」の

標識を通り過ぎると「金沢横町の道標」4基に出会います。ここは金沢道や鎌倉道への分岐点です。道標の古いもの



は天明3年（1783年）に作られたもので、中には俳句を詠んだ珍しいものもあります。道標脇には観光案内の「程ヶ宿番所」があり、パンフレットの入手やトイレ休憩ができて便利です。



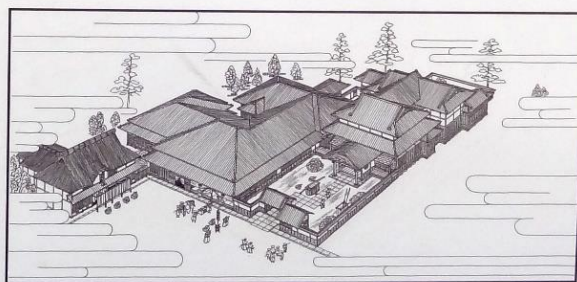
JR 東海道線・横須賀線の踏切を渡って金沢・鎌倉道を上りますと、北条政子が休憩したと言われる「御台所の井戸」や北向きに建てられた「北向き地蔵」があります。



旧東海道に戻り大きな踏切を渡って国道 1 号線に出ます。ここは

箱根駅伝のルートですが、実況中継のアナウンサーがここで、「保土ヶ谷橋を右に曲がって、いよいよここから権太坂の長い登りで、『花の 2 区』といわれる箱根駅伝の最初の難所です！」放送する場所です。

最初に「保土ヶ谷本陣跡」があります。本陣は小田原北条氏の家臣の子孫苅部家が務め、問屋、名主を兼ね保土ヶ谷宿では最も有力な家でした。また安政 6 年（1859 年）の横浜開港の際には、当主が総年寄に任じられ、初期の横浜町政に尽くしました。現在は姓を軽部に改めています。通りに面して残された門や土蔵から、説明標識に描かれた昔の豪壮な本陣全景を偲ぶことができます。



保土ヶ谷本陣復元想像図（金子寿彦氏作成）



近くには脇本陣の「旅籠本金子屋跡」があります。通用門や格子戸が当時の旅籠の雰囲気を与えています。本陣が混雑した際に休憩や宿泊

に使用されるものです。保土ヶ谷宿には本陣が 1 つ、脇本陣が 3 つ、茶屋本陣が 1 つ、旅籠屋が天保 13 年には 69 軒もあり、大変賑わっていたようです。

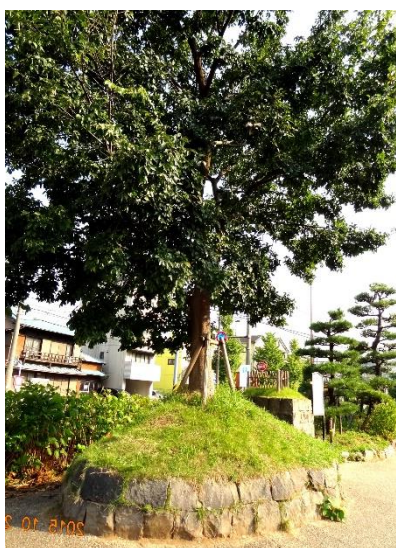
JR 東海道線の反対側には本陣苅部家の菩提寺「大仙寺」があります。平安中期の970年頃創建された保土ヶ谷では最も古い真言宗の寺院です。東海道を行き来する旅人の信仰も厚く、道中安全の祈願で賑わったと伝えられています。



街道脇の今井川を反対側に渡って

坂道を少し登りますと「八幡社」があります。鎌倉時代末期（1318年）に創建され祭主は應神天皇です。本殿は江戸時代の建立と伝えられています。参道脇に大きな公孫樹の木が2本立っています。

先に進みますと平成19年に復元された一里塚と松並木が現れます。一里塚は日本橋から8番目で、塚の上には昔を偲んで小さな榎が植えられています。街道脇には松の木が植えられています。今はまだ小さいですが、将来大きくなって立派な松並木が復元するのが楽しみです。また宿場口を意味する「上方見附跡」もあります。



東海道保土ヶ谷宿の松並木と一里塚

保土ヶ谷宿の松並木 我が国に於ける街道並木の歴史は古く、遠く奈良時代まで遡りますが、全国的な規模で取り組まれるようになったのは江戸時代に入ってからです。慶長9年（1604）、幕府は諸国の街道に並木を植えるよう命じました。以来、夏は木陰を作り、冬は風雪を防ぎ、植樹帯は旅人の休息場所となることから、官民挙げて大切に保護されました。

保土ヶ谷宿の松並木は、この付近から日本橋まで3kmあまり続き、比叡や北斎などの浮世絵にも度々描かれました。その後、昭和初期までは比較的良好な状態で残されてきましたが、時代とともに減り続け、現在は旧東海道の権太坂付近にわずかな名残を留めるだけになってしまいました。

この度の松並木復元事業では、「上方の松原」と呼ばれていた今井川に沿った約300mの区間に松などの木々数十本を植えました。

保土ヶ谷宿の一里塚 松並木と同時期、街道の崩壊の目安として、日本橋を起点に一里（約4km）ごとに築かれたのが一里塚です。一里塚は、街道の両側に土を盛って小山をつくり、その上には遠くからでも目立つよう榎や松などの木々が植えられていました。

保土ヶ谷宿の一里塚は日本橋から八番目に位置し、ここより300mほど江戸寄りの地点（現在の車道上）にありましたが、古くから南側の一帯の存在しか伝わっていません。その一里塚も明治時代の始め、宿場制度の廃止に伴って姿を失いました。

この度の一里塚復元事業では、場所の制約から文献にあるような「五間（9m）四方」に相当する大きさの塚を築くことができませんでしたが、塚の上には昔のように榎を植え、松並木と併せて宿場時代の再現に努めました。

*復元事業の経緯については裏巻をご覧ください。

平成19年3月 東海道保土ヶ谷宿松並木プロムナード実行委員会 横浜市保土ヶ谷区役所
（本紙掲載は、今年度版「保土ヶ谷の歴史」に掲載が予定されています）

2015



街道脇の今井川を反対側に渡ったところに「外川神社」（とがわ）があります。境内の道祖神は虫封じと航海安全のご利益があるとして、「お仙人様」の名で親しまれ、かつては参詣客で溢れ返っていたそうです。祭主は日本武尊で、ご神木は東海道からも良く見える大きな榎です。

先に進みますと、前回皆さんに紹介した箱根駅伝のマンホールの蓋があります。ここから国道1号線を離れて旧東海道に入ります。



途中に日蓮宗の「樹源寺」があります。鎌倉時代に建てられた医王寺が焼失した後、江戸時代初期に苅部家により身延山久遠寺の末寺として開山されました。境内に美しい庭園があります。

少し先の「帝釈天と旧元町橋跡」を過ぎ、元町橋交差点を左折し、50メートルほど進むと右手に急な坂道が出てきます。ここからいよいよ権太坂の登りにかかります。尚そのまま50メートルほど進むと国道1号線に出会います。この辺りは花の2区を任された各校のエースランナーが、母校の栄誉を賭けて、喘ぎながら坂道を駆け上っていく、最高の勝負どころです。

以上



富士三十六景 東海道 程ヶ谷 (前北齋為一)

(神奈川県立歴史博物館所蔵)